

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870201328		
法人名	社会福祉法人 大島福祉会		
事業所名	グループホーム あしよかの里		
所在地	今治市吉海町仁江26番地1 (電話) 0897-84-2237		
管理者	村上 五鈴		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 1 月 23 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 2 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 7 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.1 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 7 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは平屋で、同運営法人の特別養護老人ホームに隣接している。ホーム前には山や林野が広がり、落ち着いた環境である。ホーム内は白壁と白木造りの柔らかい雰囲気、居室は広くゆったりしている。管理者は長年の介護の経験を活かし、理念に添って職員と共にサービスに努めている。職員の異動や離職はほとんどなく、利用者に明るく接しながら馴染みの関係を築いている。地域行事への参加、小学生の体験学習やボランティアの受け入れなど地域との相互交流に努めている。日々の生活の中に、法人主催の夏祭りに地域住民と共に参加するなどの季節行事

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回評価結果を踏まえ、理念及び時計の掲示場所、玄関の雰囲気の工夫、トイレ収納棚の整備などの改善に取り組んでいる。改善に向けた取り組みや改善状況を記録した改善計画表の作成を期待する。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員数人から口答で聞き取り、担当者がまとめている。管理者、職員全員が評価の意義を理解して、全員で取り組むことを期待する。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
ホームの現状と課題、外部評価結果の公表、家族会のあり方などについて、活発な質疑応答がなされている。討議内容を活かし、同業者との相互評価を通してサービスの向上につなげている。2か月毎の開催を期待する。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の訪問は頻回であり、職員との信頼関係も築かれているため、直接要望や意見が出されているが、更に常に問いかけを心がけており、出された要望を運営に反映している。また、苦情相談窓口も重要事項に明示している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の文化祭や保育園の運動会への参加、小学生の体験学習及び書道や喫茶ボランティアを受け入れるなど積極的な交流を行っている。また、法人主催の夏祭りに地域住民と共に参加し、地域との相互交流、連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあしよかの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 村上 五鈴

評価完了日 平成 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念を設けている。 (外部評価) 開設時に職員が話し合い作成しているが、今後新たに見直すことを予定している。	※	管理者及び職員は地域密着型サービスの重要性を理解し、地域との交流に積極的に努めているため、それらを踏まえた理念が新たに作成されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を室内に掲示し、常に意識を持って仕事に取り組んでいる。 (外部評価) 大きく書いた理念をリビングに掲示し、常に目することで日々のケアの振り返りをしているが、全員で理念について話しあう機会は持っていない。	※	ミーティング等の機会に職員全員で理念について話し合い、振り返りを行い、日々のケアの統一を図ることを望む。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族やボランティアなどの人たちに、面会の時や便りを通じて理念に沿ったサービス内容や生活状態を説明し、できるだけ理解を得るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩やお買い物に行った際に出会う近所の人たちと世間話をし、気軽によって貰うようにお話をしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 保育園の運動会、町内の文化祭、その他出来る限り地域の行事に参加している。 (外部評価) 地域の文化祭や保育園の運動会への参加、小学生の体験学習や書道、喫茶ボランティアの受け入れ、また、法人主催の夏祭りには地域住民と共に参加し、地域の人々と交流するなどしている。今後は市福祉センターの「敬老の家」への参加も予定している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 小学校の福祉体験学習の受け入れをして、認知症のお年寄りの理解に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価に対して、出来ていないことは可能な限り実施できるようにしたいと考えている。 (外部評価) 自己評価は数人の職員に聞き取った内容を担当者がまとめている。前回評価結果を踏まえ、理念や時計の掲示場所の変更、玄関の雰囲気工夫、トイレの収納棚の整備などの改善を行っているが、改善に向けた取り組みや改善状況を記録していない。	※	評価の意義を理解したうえで全職員で自己評価に取り組むことが求められる。また、外部評価の改善に向けた取り組みや改善状況を記録した改善計画表の作成を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見を参考にし、サービス向上に活かしている。		
			(外部評価) 市担当者、地域住民代表、家族などの参加を得て、議題にホームの現状や課題、外部評価結果の公表、家族会のあり方などを取り上げ、活発な会議を行っており、出された意見はサービスの向上に活かしているが、会議の開催は6か月毎となっている。	※	会議開催を計画的に、おおむね2か月毎に実施することを望む。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) お互いに多忙で話し合いをする機会が少ない。		
			(外部評価) 管理者は長年居宅介護に携わった経験を活かして、市担当者と行き来する関係を築いている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会で勉強をしたが、制度を必要としている人がいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会で学習し、所行く員同士で注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い理解・納得が出来ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見や要望は些細なことにも耳を傾け、職員のミーティングで話し合いを行い実施している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ホームの便りを発行している。金銭管理は領収証等を毎月説明し渡している。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時や、2～3か月毎に発行の「ホーム便り」で利用者の暮らしぶりお知らせ、訪問の少ない家族には電話連絡するなど定期的及び個々に合わせた報告をしている。金銭出納簿は毎月報告し認印をもらい、領収書を渡している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 法人内部に苦情窓口を設け、不満や苦情を解決するよう名体制を取っている。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問が多いこともあり職員との信頼関係が築かれており、直接要望や希望を話してもらえ、それらを運営に反映している。更に、機会を捉えて常に問いかけを心がけている。重要事項説明書に苦情相談窓口も明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い職員との意見交換を行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の変更や状態に応じた職員の勤務変更や調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 不必要な異動は避け、新人職員に馴染みの期間を設けてケアに取り組んでいる。 (外部評価) ホーム開設以来2名と、異動は少なく、利用者との馴染みの関係が築かれている。		特になし。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) グループホーム協議会の研修会には積極的に参加し、ミーティングを通じて処遇の向上に努めている。 (外部評価) 運営者は、職員を段階に応じ、また、希望に応じてグループホーム連絡協議会の研修などを受けることを勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ホーム間の相互研修を行い、他ホームの職員の意見を聞きサービスの向上に努めている。		
			(外部評価) 東予地区のグループホーム3か所と、相互評価を通して日々のケアを振り返り、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者は会議や研修に参加した時には情報交換をしているが、職員と共に交流するには至っていない。	※	運営者は、管理者・職員が地域の同業者と研修や相互訪問などの機会を持ち、それらを通じてサービスの質の向上を図ることができるよう取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の親睦会活動を通じて、ストレス軽減に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得を促し、責任感やスキル向上が出来るよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前に自宅を訪問し、本人・家族の意見を時間を掛けて聞き、少しでも不安感をなくすよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前に自宅を訪問し、本人・家族の意見を時間を掛けて聞き、少しでも不安感をなくすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族のニーズに応じるように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前にホームに見学に来てもらい、事前に場の雰囲気に馴染めるように取り組んでいる。 (外部評価) 利用前に職員が利用者を訪問したり、利用者と家族にホームの見学をしてもらうなどして、馴染みながらサービス利用ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人を尊重し、出来るだけ自発的に活動できるような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 職員は、利用者を介護されるだけの立場と捉えるのではなく、家族のような関係の中で、行事やしきたり、言葉使いなど教えてもらったり、日々のケアに対する感謝や励ましの言葉をかけられるなど、支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ家族の面会の機会をつくってもらい、一緒にくつろいだ楽しい時間を持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 出来るだけ家族の面会の機会をつくってもらい、一緒にくつろいだ楽しい時間を持てるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所に行きたいという希望があれば、出来る限り希望に添えるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) みんなで楽しむレクリエーションの時間を出来るだけ多く作っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の特養に入所しても時々会いに行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を聞く機会を作って、出来るだけ希望に添えるようにしている。 (外部評価) 日々のケアの中での話し合いや見守りから、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。それらを連絡ノートに記入して、職員は利用者の思いや希望を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から出来るだけ詳しい話を事前訪問で聞くようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの状況把握を意識して、それぞれに接していくよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全体の意見を聞き、介護計画の作成を行っている。 (外部評価) 本人がより良く暮らすために、本人や家族から生活歴・習慣・思いなどの情報を聞き取っているが、記述は少ない。職員間で話しあった意見やアイデアを反映した具体的目標がやや分かりにくい。	※	利用者の介護度が低いこともあり課題が挙げにくい点も見られるが、利用者本位の生活が続けられるよう、きめ細かい介護計画を作成することを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化に応じて、関係者の意見を聞き、新たな計画の作成を行っている。 (外部評価) 定期的見直し以外にも、利用者の状態の変化に応じた見直しを随時行っている。定期的見直し期間が3か月になっており、新たな計画書に家族の署名、確認印がない。	※	比較的安定している利用者の場合も、毎月のミーティングで状況を話し合い、本人や家族の要望を取り入れた見直しを行い、本人または家族が確認後、署名・捺印を得ることが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 業務日誌や介護記録で情報を共有し、その時々への処遇に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々への要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の要望に出来るだけ応じるように支援をしている。 (外部評価) 現在までに事例はないが、本人や家族などの状況、要望に応じる姿勢である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員やボランティアなどに趣味活動の支援をしてもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じて、他のケアマネジャーとの連絡調整を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今のところかかわりがない。	※	今後、地域包括支援センターとかかわりを持つ。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 1/w回嘱託医師の往診あり。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医受診を支援しているが、受診結果は把握できていない。	※	本人や家族の希望する馴染みのかかりつけ医への受診を支援し、受診結果の共有方法等について検討することが望まれる。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 嘱託医を通じて必要な場合は専門医を紹介して貰えるようになっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の中にも看護職の配置を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関と連携を取り、退院の話をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人の状態を見ながら、将来の方針について関係者と話し合いを行っている。 (外部評価) 職員は重度化した場合や終末期について話し合い、ホームとして現時点では対応していない。協力医療機関との連携を密に、利用者の健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化した場合は適切な生活場所への移行を検討し、それまでの間の支援を行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人・家族と話し合いを十分行い、ケア関係者に十分な情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、個人情報の取り扱いに最大限注意している。 (外部評価) 管理者や職員はプライバシー確保の大切さを認識し、日々のケアにおいて声かけや対応に配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人のしたいことや食べたい物などの要望を聞き、出来るだけ自分で行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて実施しているが、出来ないこともある。 (外部評価) お茶や食事時間など、本人の体調やペースを大切に、希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 希望があれば対応が出来る。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る人は職員と一緒に準備や片付けをしている。 (外部評価) 利用者と共に育てた野菜を献立に取り入れたり、一緒に調理の下ごしらえをしたりして、食事が楽しいものになるよう配慮している。また、下膳や後片付け等の役割を担ってもらい、利用者は生き生きと力を発揮している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康状態に配慮しながら希望通りにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ声掛けや誘導を行い失禁のないよう配慮している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日や時間帯の希望はない。 (外部評価) 現在のところ入浴時間を午後と決めており、時間外の要望には対応できない状態にある。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 自由な休息と安眠を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 出来るだけ多くの機会を作り、役割、楽しみごと、気晴らしの実現に努めている。 (外部評価) 食事の準備や野菜作りなどの生活歴や力を活かした役割の支援、書道などの稽古や年間行事を計画して季節の行事・イベントの毎月の実施、ミニデイサービスへの参加やボランティアによるホームでの喫茶など、楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望でお金を所持している人もいる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ドライブや散歩の機会を出来るだけたくさん作っている。 (外部評価) 利用者の希望に沿って近くの神社への散歩やドライブなど、戸外に出かけられよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ドライブなど行きたい場所を聞き、行き先を検討している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望者はいつでも電話が出来るよう支援している。年賀状は全員出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 馴染みの人たちがいつでも訪問でき、楽しく過ごせるよう雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないように努めている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関や居室に鍵はかかっている。 (外部評価) 居室や玄関は、日中鍵をかけていない。帰宅願望のある利用者には習慣を把握し、職員の見守りで対応するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人ひとりの行動パターンを把握し、定期的に所在や安全の確認をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険性のある物品は場所を決めて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの事故への危険度を把握し、事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練は行っていないが勉強会はしている。	※	救命講習の機会を作る。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施し、併設の特養と共に協力を得られるようになっている。 (外部評価) 避難経路・連絡網・消防計画を作成し、避難訓練を年2回行っている。避難に際しての近隣住民の協力体制として、「地区応援マニュアル」にホームが組み込まれている。今後は毎月避難訓練を実施する予定である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 生活の中で起こりえるリスクについて家族に理解を得るよう努力している。	※	話し合いの機会を持つ。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、申し送りで情報を共有し、体調の変化に注意をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員が薬について把握し、必要に応じて他の職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い食材を出来るだけ使用し、定期的に水分補給を行い、日常生活の中で出来るだけ身体を動かすように働きかけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、声かけをし、自分でできない人には職員が介助をして口腔衛生に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えた献立を検討し、一人ひとりの摂取量が適正であるか記録をとり体重測定と比較しながら考察をしている。 (外部評価) 食事及び水分摂取量を毎日記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じて適切に摂取できるよう支援している。献立を同法人の特別養護老人ホーム栄養士からきめ細かく指導してもらっている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 併設特養の感染予防委員会に参加し、マニュアルや対応を話し合っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具の消毒・乾燥を行い調理場の衛生に努め、食材は納品の際にチェックを行って。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花壇を設置し、スロープには手すりが備えられている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間から外の景色や菜園が見え、季節感や自然に親しみながら生活が出来る。 (外部評価) 白木作りで柔らかい雰囲気、窓はカーテンで程よく外光を取り入れ、居間・台所・食堂は一体で、利用者は調理の様子も見ながらのんびりと過ごしている。利用者の書道の作品、日めくりカレンダーや時計を居間に飾り、装飾過多になっていない落ち着いた空間である。玄関やテーブルには観葉植物や季節の花を生けている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間には畳のスペースがあり、独りになったりくつろぐことが出来る。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人の大事な物や好みの品を置き、くつろぎの空間になるように配慮している。 (外部評価) テレビや整理ダンス、鉢物、家族の写真などを持ち込んだ居室もあれば、シンプルな居室もあり、利用者それぞれの好みを活かした居室を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 異臭のある場合は換気を行い、温度計で室温を確認し調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室を決める際に一人ひとりの能力に合った部屋を考え、出来るだけ自立した生活が送れるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレや居室の出入り口には分かりやすい表示をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の南側に家庭菜園を設置し、営農活動を楽しむことが出来る。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	少しの部分は実現不可能である。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつと一緒に一緒にお茶を飲み、会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	あせらしたり急がしたりせず、時間を掛けてゆっくりするよう声がけをしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりが楽しみや生き甲斐が持てるように支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	普段の日課に追われて時間が取れない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調に不安がある時は、いつでも囑託医の受診が出来る。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に耳を傾け柔軟に対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族と出来るだけ連絡をとるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	併設のデイサービスに時々出かけ、地域の人たちと交流している。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	ボランティアや訪問者が少しずつ増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフ間で話し合いが良く出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族から”良くしてもらって、感謝している”と言われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員との信頼関係は出来ていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)